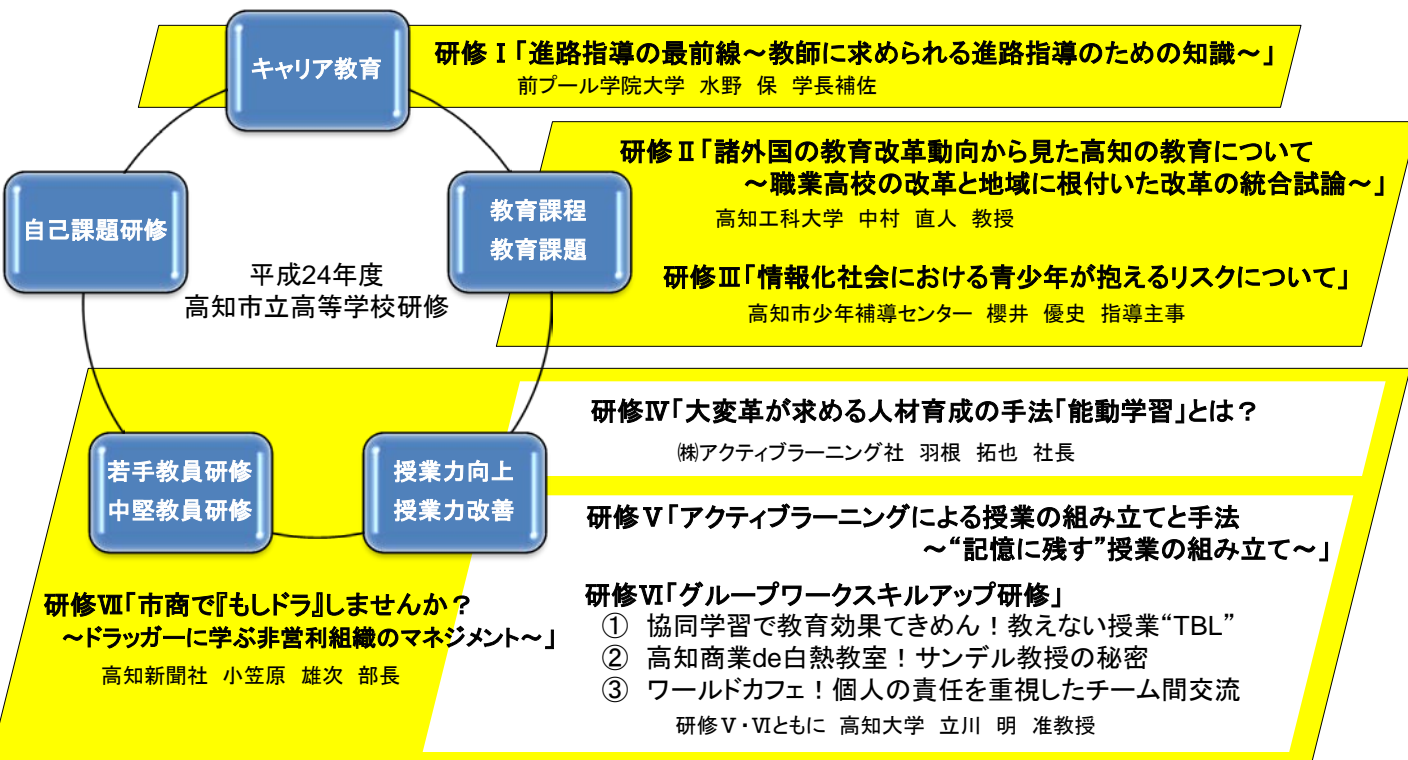




高知商業研修特集

～ 高知市立高等学校研修レポート ～

高知市立高等学校教育の現状と課題への理解を深めるとともに、高知市立高等学校の教職員としての自覚を高め、資質・指導力の向上を図ることを目的に、市立1高校の強みを生かした研修体制で実施している。



研修Ⅱから

諸外国の教育事情の中で教訓とすべき内容

全日制研修

イギリスの教育改革 社会における格差を教育、特に学力向上によって解消しようとする方策を採用した。

- ① 学校の自立性を最大限保障し、地域の実情に合わせた効果的な学校運営を目指す。
- ② 効果的な学校運営を達成するため、教育委員会さえ民営化。第三者評価を徹底し、厳しい結果責任を持たせる。上記を通して → 学力向上の結果、就職と地域の生活を安定させ、公共性を持った良き納税者を育てる。

韓国の英語教育 小学校低学年からの英語英才教育を国を挙げて推進した。

- ① 教員研修の徹底と映像による授業の採用により、授業水準を統一し、英語力の飛躍的な向上に繋がった。
- ② 英語力の向上に伴う学力の向上により、国外で活躍する人材を多数育成した。上記を通して → 国内では優秀な若者不在という、人的な空洞化が起こった。

講師よりの提言 高知の教育をどうするか。

- ① 保幼→小→中→高の連携において、情報が確実に継承され、卒業生の就職までの進路が把握できるようにすること。
- ② 学校の機能向上を柱とした教育改革を通して、就職から地域定住までの一貫した政策を実現させること。上記の内容を実現させるために → 各教育機関が連携し、まずデータを取ることから始めよう！

研修Ⅲから

意外と知らない携帯電話・ネット上の問題点

定時制研修

デジタル万引き

購入前の本や雑誌の記事を撮影することを「デジタル万引き」と言い、重大なマナー違反です。購入していてもネット上で公開したり、違法サイトにアップすると「著作権法違反」になる場合あり。

ネット上のいじめの問題点

- 1 被害が短期間で極めて深刻になる。
- 2 簡単に被害者にも加害者にもなる。
- 3 個人情報や画像が流出し、悪用される。
- 4 実態を把握して対策をとることが困難である。

高等学校研修(続き)

研修Ⅳから

授業でLITEを使おう

全定合同研修

LITE (Learning In TEaching)とは、他者に教える、伝えることにより、学習内容がより定着するという学習方法。
授業においても活用すべき手法のひとつ。(研修Ⅴ,Ⅵ,ⅦにおいてもLITEを体験し、効果が確認された。)

授業での具体的な例

- ・前時の復習を子ども同士で確認し合う。(常に行うことで、授業までに復習してくる習慣もつく。)
- ・授業中や最後のまとめの際にLITEさせる。(学習内容の確実な定着とともに、授業への集中度が上がる。)

他者に伝えることを前提とした方が、より脳が開かれて記憶力が向上するという大脳の性質にも基づく。

研修Ⅴ・Ⅵから

アクティブラーニングの実際

若手教員・定時制研修

アクティブラーニングとは「能動的に学習している状況」を指す。各テーマの要点は以下の通り

- ① TBL (チームを基盤とした課題解決型学習)で生徒の能動性を喚起
教えない授業の仕掛けとは、生徒とそのグループに自分たちの学習の質に対する責任性を持たせることにあり!
- ② 良い質問が能動的な学習環境を生み出す。では良い問いとは?(3つの条件がある)
 - ア 自分事である。
 - イ 「えっ?」と思う。
 - ウ 授業の内容に関係がある。
- ③ ワールドカフェで知的交配しよう
人々がオープンに会話をを行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ、知識や知恵の共有や新しい知識・知恵が生まれる。チーム活動を通じた楽しい学習方法である。

サンデル教授の「白熱教室」を手本とした。

研修Ⅶから

5つの質問～マネジメントの父ドラッガーに学ぶ～

中堅教員研修

ドラッガーの著名な5つの原則と質問を軸に、中堅教員が教育公務員・非営利組織人としての使命をグループワークで研修した。

仕事で成果をあげるための5つの原則

- 1 時間を管理せよ
- 2 意思決定せよ
- 3 目標を決め、管理せよ
- 4 アクションプランをつくれ
- 5 生涯を通じて学べ

ドラッガーの5つの質問

- 1 われわれのミッションは何か?
- 2 われわれの顧客は何か?
- 3 顧客にとっての価値は何か?
- 4 われわれにとっての成果は何か?
- 5 われわれの計画は何か?



仕事で成果を上げる5つの原則とは (LITE※を使って講義中)

グループ別発表風景



高知商業のミッションとは何か? 共有中

研修の記録から

各研修における受講者の感想

(抜粋)

- ・学校で守られている生徒が社会で生きていけるか?という問いに強く共感した。どうすれば希望大学等に行けるかではなく、卒業したらどうするかまでを視野に入れた指導の必要性をよく理解できた。(研修Ⅰ)
- ・学力向上をHowの視点で実践しようとしてきたが、その前提としてWhyの視点を持つことの重要性が理解できた。(Ⅱ)
- ・如何に自分が世界の動向から取り残されようとしているか、そしてそれを感じながらも何の対処もせずに日々を送っているかを思い知らされた。このままでは生徒の将来を共に考えていくことなどできやしない。(Ⅳ)
- ・講義形式で学習した内容はその95%が記憶に残らない、ということが衝撃であった。生徒が主体的、能動的に学習に取り組むことができるよう、研修で習ったTBLや問いの作成など、さっそく授業に取り入れていきたい。(Ⅵ)